

2021年1月29日

## 令和2年度 NGO 職員受入研修プログラム参加報告書

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
事業サポート課 竹本 舞

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、研修やセミナーなど外部から学ぶ機会が少なくなっていると感じていた折、緊急事態宣言の中でも、オンラインという形で研修を開催していただき、誠にありがとうございました。

実り多き2日間の研修の中で、特に3点、学びがありました。まず、1点目は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大に対する外務省の対応です。前例のない感染症の世界的なパンデミックという危機に対し、外務省がどのように取り組まれているのか、今後、どう取り組まれるのか、各担当者の皆さまから、最新の情報を交えながら、教えていただきました。また、国を越えた交流が感染拡大の要因となっている中で、自団体の事業地ではない、普段、関わる機会の少ない地域での感染症対策と開発課題について、学べたことはとても有意義でした。特に島嶼国の感染症への脆弱性は、弊会の事業地である難民キャンプの脆弱性とも共通する点があると気づきました。

2点目は、海外での安全確保です。戦争下でない国での事業運営で、日ごろ、緊急時の退避オペレーションを意識することはあまりなかったのですが、実際のコロナ禍での退避オペレーションの実例と安全対策の講義をお聞きして、感染症に限らず、あらゆる状況への備えとシミュレーションが重要であると感じました。特に、テロ対策や海外での事業運営における安全対策について、学んだことを団体内で共有したいと思います。

3点目は、日本の外交政策における NGO の役割です。各講義で、外務省の取り組み、特に官民連携の仕組みの全体像をご紹介いただき、改めて NGO の役割について考える機会になりました。事業国内の行政やネットワーク、セクター内でのつながりを活かして連携を強化し、国全体に波及していく事業運営を今後、NGO に期待して下さっていることや、NGO 連携無償資金協力の案件が少ない地域での新規申請を奨励して下さっていることなどを直接お聞きできて、とても参考になりました。また、NGO 連携無償資金協力の講義で申請書の書き方について、具体的に教えていただいたこと、次期の申請から実践していきたいと思いました。

最後になりますが、研修の開催にご尽力いただいた民間援助連携室の皆さま、また各講義をご担当いただいた外務省の皆さまに深く感謝申し上げます。

以上

当団体は、タンザニア連合共和国の教育活動への支援を通じて、女子教育の向上を図り、女性のリーダーシップ発揮を推進することを目的に活動しています。活動を実施する中で、現地NGOと共同運営をしている、さくら女子中学校の建設、そして、現在進行中の事業は、「ODA草の根・人間の安全保障無償資金協力」や、「JICA草の根技術協力事業」のサポートがあって始まったものです。しかし、私は現場でプロジェクトに関わる立場ということもあり、「外部連携」や「制度」についての理解が乏しいため、それらの理解を深めたいと考え、本プログラムに参加させていただきました。

プログラムに参加し、学んだことの中で、特に印象的だった3点について以下にまとめさせていただきます。

### **①ODAとNGOの連携について**

まず、民間連携スキームの講義の中で初めてお話を伺った「NGOは開発協力の重要な担い手」という言葉に非常に大きな感銘を受けました。これまで私は、「ODA草の根・人間の安全保障無償資金協力」「日本NGO 連携無償資金協力」などについて、「NGOが社会課題の解決を成し遂げるため、ODAから支援していただける支援制度」と認識していました。しかし実際は、一方通行的なだけのもではなく、「政府間の二国間援助の届かない部分への支援」「政府では実施が難しい、住民ニーズに寄り添った支援」の担い手として、お互いに助け合っている関係にあることを学びました。大使館やJICAなどの各機関の役割についても正しく理解し、適切に制度を活用することで、お互いに有益な関係を築くことができるのだと思います。

一方で、日本のNGOは、国民への認識が不足していたり、その結果、財政面や組織面での脆弱性が目立ったりと、欧米NGOと比較して大きな課題もあります。以前、何かのメディアで、「日本のNGOは、仕事も膨大で給与が安いことが多く、家族を養うのが困難であるため、男性の寿退職（転職）が多い」という話を聞いたのですが、まさに、この課題が生み出した結果ではないでしょうか。持続可能な支援を行うためにも、やりがいの搾取にならないよう、多くの方々に理解していただく重要性を感じます。

### **②安全対策について**

本テーマの講義では、大きく分けて「感染症」「テロ」の2点についてを学びました。

まず、感染症対策については、今回の新型コロナウイルスの拡大が世界中で広がった際に、中国の武漢、そしてアフリカを例に、政府がどのように日本人を帰国させたのか、退避オペレーションの事例をご説明していただきました。帰国が困難になった日本人を守るため、政府が尽力してくださったとのお話や、日本政府のチャーター便で帰国した方の声を聞き、とても感銘を受けました。私は、昨年3月にタンザニアから日本に帰国することになった際、大使館やJICAが危険を察知し、帰国を促してくださったために、無事に帰国できたことをよく覚えています。頼り切ってしまうのは違うかもしれませんが、やはり手厚く守ってくれる日本政府のおかげで、私たちは安心して活動ができていることを実感できる内容でした。

新型コロナウイルスだけでなく、エボラ出血熱、比較的身近な狂犬病やデング熱など、完全に防ぐことは不可能でも、防蚊対策や小まめな手洗いなど、それぞれに感染リスクを下げる方法はあるため、適切な対応の仕方をする事で、自分の身を守ることができます。

そして、テロ対策については、被害リスクを下げるために、常に情報に敏感になっておくことや、3原則「目立たない」「行動を予知されない」「用心を怠らない」を徹底することが大切です。また、参加者同士の情報交換の場では、「何か会ったときのマニュアルを団体内で定めておく」や「地域住民と良い関係を築いておく」など、実際に他団体で行っている取り組みも聞くことができ、とても参考になりました。

### **③地域の開発課題について**

本テーマの講義では、「西アフリカ」「中米」「大洋州」の地域についての、それぞれの特徴について学ばせていただいた。それぞれの地域で共通の課題があり、周辺の国と連携をして課題解決を行っていくことが大切だと学びました。

例えば、大洋州では、島国ならではの、「国土が狭く分散している」「国債市場から遠い」「自然災害や気候変動の環境変化に弱い」という課題が見られます。また、中南米は公用語としてスペイン語を使う国が多く、日本からの二国間援助ではあるが、国毎の協力を促す開発協力も行われているとのことでした。それぞれの地域の課題や特徴を知っておくことで、限られた予算や人的資源を効率よく活用することに繋がり、より良い支援を行うことができるのではないのでしょうか。

### **さいごに**

最後になりましたが、コロナ禍で実施が難しい中ではありましたが、こうしてオンライン開催という形でプログラムの実施を実現させてくださりましたこと、ご担当者と講師の方々に心より感謝申し上げます。それぞれのご専門の講師によるお話、この報告書に書ききれないことが殆どでしたが、大変勉強になりました。盛りだくさんの内容でしたので、まずは頭の中を整理し、今後の活動に活かせられればと思います。

また、参加者の皆さま含め、直接、顔を合わせてお話できなかったことは残念でしたが、ご縁を大切に、今後も何かしらの形で協力していければと考えております。改めまして、有意義な2日間のプログラムに参加させていただき、本当にありがとうございました。

以上

## 令和2年度 外務省「NGO 職員受入れ研修プログラム」参加報告書

2021年2月2日

特定非営利活動法人 難民を助ける会

本多 麻純

本研修を通じ、外交政策としてのODAや、その一部を担うNGOの位置付けについて理解を深めることができた。また、部分的な理解にとどまっていた外務省とNGOの連携に関する各種スキームや、業務上関連の薄い地域における外務省の取り組みなどについても学ぶことができた。同時に、国益の観点から国際協力を実施する政府と、独自の価値観や理念に基づいて活動を行う市民社会組織であるNGOとの立場の違いや重なる点について改めて考える良い機会となった。

地域の開発課題に関する講義では、大洋州、西アフリカ、中米が紹介され、これらの地域における日本政府の取り組みについて理解が深まった。部分的に共通する箇所はあるものの、それぞれの地域が抱える課題は大きく異なり、地理的要因や言語を含む文化・社会的背景など、多くの要素が複雑に絡み合い現状の課題を生んでいることがよく分かった。支援活動を行う際、課題そのものを解決するための技術的知見やスキルに加え、地域社会に対する理解が極めて重要であることも改めて認識した。

安全管理に関する講義では、海外における邦人の安全確保に関する外務省の様々な取り組みやNGO職員として留意すべき治安リスクについて最新の動向について学ぶことができた。講義に続く参加者間の意見交換セッションでは、各所属団体が取り組む安全管理について知ることができ、非常に有益であった。特に、邦人職員の安全だけでなく、現地職員や受益者の安全についての言及に強く共感し、自団体においても進めていかなければいけない課題であると再認識した。

安全管理に限らず、他の参加者の質問や意見から学ぶことが多かったため、支援活動や活動地域別など様々なテーマで意見を交換する機会が設けられたら、より有意義な学びの場となったと思う。また、各講義において、NGOに期待することや、NGOとの連携事例など、NGOと関わりのある内容について触れていただくと、より本研修の目的である外務省とNGOの連携推進や相互理解に有効な講義となったと考える。

最後に、本研修の調整や講義を担当してくださった皆様に感謝を申し上げたい。直前でオンライン開催に切り替わったことは、不便も多かったと察するが、おかげで、感染症リスクのある中でも、重要な学びとNGO同士の横のつながりを紡ぐよい機会を得ることができた。

## 令和2年度「NGO職員受入れ研修プログラム」報告書

日時： 2021年1月19日・20日の2日間  
実施形態： オンライン  
内容： ODA概論 / 民間援助連携室のスキーム紹介 / 日本NGO連携無償資金協力 / JICA事業（市民参加協力事業、JICA開発教育支援事業、JICAボランティア事業、等） / 海外での安全確保 / 所属団体の安全対策に関する取組 / 地域の開発課題（大洋州、西アフリカ、中米） / テロ資金対策

この度は、コロナウィルス感染拡大による緊急事態宣言下という未曾有の事態にもかかわらず、急遽オンライン実施への変更、そして日程を調整することで実行いただき、誠にありがとうございました。直前の変更を余儀なくされ、運営側の皆様はご準備も大変だったかと想像致します。改めまして、皆様本当にありがとうございました。

私は、開発業界に入り数年になりますが、日々目の前の事業に追われる中、日本のODA全体を体系的に学ぶ機会がこれまであまりなかったため、今回の研修は多くを学べたとても有意義な時間となりました。また、全体としては、ODA概論から安全対策、NGOが利用できる各種スキーム、テロ対策、地域の開発課題など、多岐にわたり、幅広く内容の詰まった講義でした。講師や運営スタッフの人数も豊富で、たった11名の参加者で受けるには勿体ないと思えるほどの講義内容であったと同時に、外務省側のNGOとの連携に対する期待度を感じ取ることができました。日本国民からのODAに対する見方も徐々に厳しくなり、ODA全体額が全盛期の1990年代と比べると大幅に減っている中、近年の日本NGO連携無償資金協力での拠出額は増加傾向にあると聞き、改めて政府のNGO連携への期待を感じることができ、NGO職員として励みになりました。同時に、本邦NGOとしての課題（欧米のNGOに比べアピール力が弱く、用途が比較的自由な自己資金などが少ない）などについても講師・参加者共に言及があり、外務省が提供するスキームを最大限活用するためにも、団体自体の更なる能力・財政面の強化が必要とされていると改めて感じました。

オンラインでの実施ということで、参加者との横の繋がりを作りづらいという点はあったかもしれませんが、個人的には各講義後の質疑応答でのやり取りからも多くを学ばせていただき、十分に満足いく内容でした。その他、NGO連携無償資金協力事業の申請書の書き方や精算時のポイントなど、実践的な内容も多く盛り込まれていたほか、外務省のスキームのみならず、JICA職員の方にも参加いただきJICAのNGO連携スキームに関しても体系的に学べたことは非常に有益でした。おそらく多くの参加団体がそうであるように、弊社団体としても、今後より多くのファンドを獲得していきたいと考える中、このような実践的な情報を得られる研修を提供いただけたことは非常に有意義でした。改めまして、この度は2日間誠にありがとうございました。

## 令和2年度「NGO職員受入れ研修プログラム」参加報告書

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム  
事業推進部 井出悦子

今回の研修プログラムは、コロナ禍での開催ということで、残念ながらオンラインでの研修となりました。民連室の方々や参加者同士の繋がりという面では物足りない研修になるのではと参加前は危惧いたしましたが、非常に充実した参加型研修を、趣向を凝らして実施していただき、大変満足いく研修となりました。あらためまして、今回の研修実施に当たりご尽力いただきました民連室の担当者・関係者の皆様方に御礼申し上げます。ありがとうございました。今後もこのように民連室の皆様と、NGO職員が意見交換できる場を設けていただけると、お互いの風通しもよくなり、よりよい関係を構築できると思っております。

### <参加目的>

私が本研修に参加した目的は、昨今の日本のODAの潮流を知り、外務省事業（民間援助連携室のスキーム等）とJPF事業を比較し、その目的や相違点を理解することにより、今後の自分自身の業務に役立てていきたいと考えたからです。また、NGOがさらに世界各地で活動の幅を広げられるよう、その可能性について（NGOの能力強化含）外務省、JICAの制度を活用し、どのような選択肢があるのか、何が可能なのか、申請事業の質・内容の向上のために（私に）何ができるのかを考える機会としたいと考えたからです。

### <学び・成果>

講義では、ODA概論及び民間援助連携室のスキーム、日本NGO連携無償資金協力についてはじめに紹介いただきました。日頃、JPF事業に携わっているものとして、他を知る大変よい機会であり、国際協力を実施するにあたっての外務省の全体像を把握・網羅できる非常に有意義な時間となりました。地域の開発課題では、大洋州・西アフリカ、中南米について実際に業務にあっている方々から説明いただき、幅広く学ぶことができました。世界各地で繰り広げられる日本型事業の事例を知り、納税者としても日本の国際協力への関心を深めました。また安全管理やテロ資金対策につきまして、民連室以外の方々から情報を共有いただき、更に今後の備え・留意点を伺えたことは、今後事業を実施・継続するにあたり、非常に心強く感じました。

<感想・提案> 今回ご説明いただいた内容・スキームを、事業実施・活動を担うNGO職員のキャパシティビルディング、スキルの向上や組織の基盤強化を目指す研修やWSに活用す

るにはどうすればよいのかについて議論する時間があると、共通の課題に関しアイデアを共有でき、NGO 業界全体の課題、取り組みとして捉えることができるのではないかと思います。また NGO 事業はとかくボランティアだとまだまだ世間一般には思われがちですが、こうした NGO の「変えていく、変わっていく」活動・姿勢を対外的に発信することで、魅力的な職場・業界をアピールし、優秀かつ適切な人材確保に努めていくことも大変必要なことだと思いました。

最後に、次回はぜひ事業評価についてどのように実施しているのか、時間をとって説明いただければと思います。その評価・失敗をどのように次に活かすのか、活かしているのかを共有いただくことで、より事業への理解が深まり、意見交換などを通じてその経験を蓄積することで、ともに改善策を見出していければと思います。

以上

## 令和2年度「NGO職員受入れ研修プログラム」参加報告書

令和3年2月4日

認定NPO法人 IVY

鈴木 文人

私が所属している NGO では、日本 NGO 連携無償資金協力（以下 N 連）やジャパン・プラットフォームからの助成金を活用し海外事業を実施しています。日本の ODA の運用など各プロセス、スキームについての特徴などについて総括的に理解を深めたいという思いから、本研修プログラムを受講させていただきました。

日々の業務の中で、N 連の申請作業や各報告作業に従事しているものの、制度自体の詳細についてや N 連の所管部署である外務省国際協力局民間援助連携室の役割について曖昧になってしまっている部分がありました。民間援助連携室の担当者の方から申請書提出の際の留意事項や、細部についてまでご説明いただいたことで見識が深まりました。

さらに、日本の ODA の歴史及び流れを学んだことで、外務省としての日本の ODA 事業の特色である「自助努力の後押し」、「持続的な経済成長」、「人間の安全保障」の強みを生かして「積極的平和主義」を実践しているということを理解しました。また、大洋州、中米、および西アフリカなど日本の NGO の支援が届いていない地域の開発課題について、外務省がどのようなアプローチで ODA 事業を実施しているのかについて学ぶことができました。

各参加者の所属団体における安全対策の取り組みについての情報共有の場では、長期にわたって活動されている団体ほど様々な経験を踏まえて、安全対策に取り組まれているということなどのお話を聞くことができ、大変有意義なものとなりました。国際協力 NGO が少ない東北で活動している私にとって他の NGO の方との交流は貴重な機会であるため、今回の繋がりを大切にしていきたいと思いました。そして、本研修プログラムで学んだことを実際の活動に役立てていきたいです。

最後に、コロナ禍の中でオンラインでの開催など柔軟な対応をしてくださり、日本の ODA 事業について体系的にご説明くださった外務省の皆様、並びに各団体の活動についての紹介や考えを共有してくださった参加者の皆様に深く御礼申し上げます。

2021年1月25日

## 令和3年度 NGO 職員受け入れ研修プログラム参加報告書

公益社団法人日本国際民間協力会 (NICCO)

海外事業本部担当 萩原

私は当会海外事業の本部担当として、インド及びケニア事業のバックアップ業務へ従事している。当該の二つの事業どちらにおいても、外務省の提供する「日本 NGO 連携無償資金協力 (N 連)」を活動の中心資金としており、N 連はじめとする外務省の開発援助スキームや、ODA 全体の動きは、基本的に実務を通して (OJT) 学ぶ状況となっている。また、当研修担当である、外務省民間援助連携室とも、業務を通じたコミュニケーションを図っているものの、日本国として目指すべき方向性や普段の業務に対する担当者の姿勢を学ぶ機会はない。今回は研修受講前に、以下3点を受講終了後に習得している修了目標として定めた。

「N 連」及び「民連室スキーム」を体系的に学ぶ

民間援助連携室の職員とコミュニケーションを図る事で、活動資金元の担当者の、国際協力における想いを知り、国として目指す方向性を確認する

自身が担当している活動地域の開発課題を学ぶことで、将来の新規事業に関する着想を得る。

結論、上記3つの目標は概ね達成した。

まず に関してだが、ODA の中において、N 連は 2002 年の制度開始以降、着実に拡大をを広げ直近 2020 年には実績額が過去最大となるなど、政府内 (及び ODA 内) の資金使用用途においても、重要な位置付けにある事を学んだ。この事実は、N 連事業推進を図る私達 NGO 職員の活動責任を一層向上させる点である。また、民連室のスキーム紹介においては、「NGO (市民社会) との連携」は、開発現場において重要な位置づけにあると再認識し、政府機関では対応しきれない、細やかなニーズ把握と課題解決を担う我々の存在意義を再び確認する機会となった。上位者下位者という縦関係ではなく、開発協力のパートナーとして、不足している部分を補填する関係という点を念頭に置いて、活動に臨もうと思う。次に ついてだが、今回のオンライン開催という壁を越えて十分に民連室職員とコミュニケーションを取る事が出来たと考える。まず 1 番大きかった点であるが、川崎室長はじめとする職員の皆様が、研修前後において参加研修員との会話の時間を設定し、参加者それぞれの経歴や役職に合わせた質問及び柔軟な回答をしてくださったことが非常に大きな点である。この点に関しては、良い意味で想定外のコミュニケーションの時間であった。形式ばった講義形式の研修が進行されると半ば想定していたのだが、物腰柔らかか

く、丁寧な言葉のやり取りをしていただき、これこそ国際協力に携わる「同志」の会話であると感じる事が出来、今後の業務における、カウンターパートのイメージを好転させる大きな材料となった。同じ方向性を向いて同じ目標達成のために走るパートナーという位置づけで、一層良好な関係構築に励みたいと思う。そして に関して、アフリカの開発課題に関して説明担当者の方より、NGO としてあるべき課題解決に向けた姿についてアドバイス頂けたことで、自分たちがどのように進むべきかを再認識する事が出来た。そのあるべき姿というのは、「現地において真に解決すべき課題に対して、機動力を活かしてそれらの解決に臨む」という姿勢である。国際機関や政府機関は特定の物事を面積大きく解決する力はあるものの、政治的なしごみや自国民の評価を始めとする複数の制約の中で途上国開発に臨むことも少なくないはずである。一方、問題解決の実力面積は、政府機関に及ばないものの、活動柔軟性や機動力を活かすことで、その土地固有の問題真因を解決する事も出来るのが NGO である というニュアンスのコメントを説明者の方より頂く事で、自分たちの活動に自信をもって遂行することに繋がると感じた。

最後に、今回のコロナ禍において、ぎりぎりまで対面での研修開催にこだわり、顔を合わせたコミュニケーションを図ろうと試みて今回の機会をつくってくださったことに心より感謝するとともに、オンラインの研修においても我々参加者の疑問点を出来る限り取り除く姿勢を見せてくださった民間援助連携室の皆様にお礼を申し上げたい。

以上

2021年1月21日

## NGO 職員受入れ研修プログラム参加報告書

日本国際民間協力会 NICCO

本部事業部 平間優

コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言という非常にお忙しい中、このような貴重な機会を提供していただきありがとうございました。非常事態によって開催自体が危ぶまれる中でも、オンライン開催という柔軟な対応をとって頂いたことに感謝しています。外務省民間援助連連携室室長から、ぎりぎりまで現地開催を検討して下さったというお言葉もうかがえて非常にうれしく思いました。

私は京都に本部を設けている公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）の本部事業部に所属しております。昨年の11月に新しく入局したということもあり、まだまだODAの概要や外務省・JICAの助成金スキームについて理解が不足しているという認識がありました。今回 NGO 職員受入れ研修プログラムに参加するにあたって、①ODAの概要を今一度学びなおし、日本政府が行う開発援助について理解を深めること、②他団体からの参加者や民間援助連連携室の職員方と交流を深め、意見交換等を通して外部とのつながりを強化すること、という二つの目的をもって参加しました。

当初は3日間の研修予定が2日間という短い研修期間に変更にありましたが、各講義を通して「ODA」・「地域別の開発課題」・「安全対策」を網羅的に学ぶことができました。3つの分野とも参加前に比べて理解が深まりましたし、以前まで知らなかった新しい学びがあり大変有意義な研修になりました。

「ODA」については、日本政府が行うODA予算の水位や実績、各国別の援助実績などを、これまで日本のODAが歩んできた歴史とも合わせて学びなおし、また当会事業に直接関わる外務省・JICAの助成金事業に関して、私が知らなかった新たなスキームを知ることができました。「地域別の開発課題」では、個人的に渡航経験がない地域ばかりでしたので、講義を通して各地域の解決課題や具体的な事業の事例に加え、各地域の特性や文化も垣間見ることができました。「安全対策」に関する講義では、感染症やテロの具体的な事例に加え、各団体が行う安全対策の意見交換の時間があり、私自身の普段の安全管理意識の低さに気づく良い機会となりました。支援事業を円滑に進めるうえで、自身やスタッフの安全管理は最も重要な要素だと認識していながらも、ついつい油断してしまうケースがあるので、日ごろから意識的に安全管理を心掛けて取り組まなければならないと実感しました。

オンライン研修というコミュニケーションが難しい状況でありながらも、当研修の初めと終わりに川崎室長をはじめとした民間援助連携室職員の方々と参加者との間で交流する機会があり、皆様のパーソナルな面や雰囲気・バックグラウンドを知ることができた非常に有意義な時間でした。省庁職員に対して、どうしても業務上の文面だけのやり取りだと、官僚的なイメージを想像してしまうのですが、そんなイメージとは相反する人間身のあるやり取りをお見受けすることができて、なぜかほっとした気持ちになりました。

この度はこのような研修を企画して頂き、誠にありがとうございました。  
講師・参加者から多くの学びを得ることができましたので、今後の業務にも役立てていきたいと思っております。  
2日間ありがとうございました。

NICCO 平間優

## 令和2年度「NGO 職員受入れ研修プログラム」参加報告書

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

河野 太紀

本研修プログラムには、外務省が NGO との連携推進に向けて、どのような枠組みを設け、どのような連携を期待しているか、その全般的な目的や取り組みについて、外務省の視点を勉強したく参加しました。全体を通して、ODA 政策や各 NGO 向けスキームの特徴、海外での安全対策など、ここでしか聞けない貴重な情報を含め、大変わかりやすい説明を聞くことができ、充実した機会となりました。

ODA 概論と地域の開発課題の講義では、日本の開発協力の目的、取り組み、方針などについて包括的に理解することができました。ODA の全体像の解説から、各地域別の課題や支援の紹介に至るまで、日本の開発協力の様々な特色や成果に言及がありましたが、中でも個人的に注目したのが、日本の開発協力の基本方針の 1 つでもある「人間の安全保障の推進」です。日本が「誰一人取り残さない」の指導理念に立ち、脆弱な立場に置かれやすい人々に焦点を当てた取り組みを加速していく上で、NGO が果たせる役割は今後一層大きくなると感じました。紹介のあった大洋州、西アフリカ、中米など、それぞれの地域における課題は異なるかもしれませんが、共通して住民に寄り添った草の根レベルでのきめ細かな支援ニーズは高く、外務省として今後日本の NGO の活動が少ない国・地域や分野を含めて、NGO との連携を強化していきたいというメッセージを受け取りました。

外務省民間援助連携室のスキーム紹介や JICA 市民参加協力事業に関する講義では、NGO 対象の各制度の概要、目的、事例などについて、幅広く理解を深めることができました。とりわけ、資金面での協力に関し、政府全体の ODA 予算が近年限られてきている中で、主要な資金協力スキームである日本 NGO 連携無償資金協力と草の根技術協力事業ともに、資金供与実績が過去最高水準で推移しているのは、一つには NGO との連携推進を目指す政府の方針の表れであり、もう一つにはより多くの国際協力団体が発展している結果だと思いました。

海外での安全確保として、感染症対策やテロ対策、テロ資金対策といったテーマを扱った講義では、海外渡航前の準備から、滞在中の心得と行動、組織の体制整備まで、実用的な情報を得ることができ有益でした。NGO の活動においては、病気、窃盗、交通事故などの平時の危険から、災害、テロ、紛争などの緊急事態まで、様々なリスクと隣り合わせであること、十分備えることが必須であることを再認識しました。

今回の研修を通じて得た知識は団体内で共有し、今後の活動の参考にさせていただきます。最後に、このような貴重な研修の機会を設けてくださいました、民間援助連携室の皆さまをはじめ、様々な部署からご参加くださった講師の方々にご心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

令和2年度 NGO 職員受入れ研修プログラム  
参加報告書

公益社団法人アジア協会アジア友の会  
坂口 優

当会では、N 連を活用した事業を展開していますが、私自身は新卒で当会へ入職し、現場での経験もまだありません。今回の研修では、N 連事業について体系的に学べ、また NGO と政府機関がどのように連携しながら活動ができるかについても勉強することができ有意義な講義となりました。

N 連事業に関して学ぶことで、NGO の役割は国際協力の現場においてかかせないものであると感じました。NGO だからこそできる活動や役割があり、そこに ODA や政府機関としての活動及び役割が融合することで、日本としての国際協力が成立しているということも1つの学びでした。

また、ODA を通して様々なフィールドで活躍されている経験から、「欧米の NGO と比べ、日本の NGO にはもっと社会へアピールが必要だ」という貴重な意見を聞くことができました。日本社会へどのようなアピールができるかを日本の NGO 全体で考えていくことも必要であると同時に、当会だからこそできるアピールを今後職場で議論し、行動していくことが非常に重要であると感じました。

海外での安全対策に関して、参加された NGO 中での取り組みを紹介し、情報共有が行われたことは非常に参考になりました。活動する現場や地域が異なるとそれぞれ取り組む対策なども異なると同時に、当会にも取り入れることができそうな行動もあり、団体として、また現場で活躍するにあたり参考としていきたいです。

地域開発課題では、当会の活動地以外の講義が行われ、普段はなかなか知る機会が少ない地域についてどのような活動や課題があるのかについて学ぶことができました。個人的には、大洋州での活動に興味を湧き、島国、小国であるからこそその課題や取り組みがあり、勉強になりました。

新型コロナウイルスが懸念される中、オンラインという形で本研修を開催していただき、誠にありがとうございます。今回の研修では、他団体の皆さまとも直接会う、話す機会はありませんでしたが、大変勉強になる講義ばかりでした。自身も NGO、現場での活躍がまだ浅いですが、今回の学びを今後の活躍に活かしていきたいと思えます。

以上

令和3年1月29日

## 報告書

### 令和2年度「NGO職員受入れ研修プログラム」

特定非営利活動法人 環境修復保全機構

青木景子

まず、外務省関係者の方々におかれましては、未曾有の災禍の中、2日間にわたる研修をオンライン形式で開催下さり、大変感謝しております。この研修を通して得ることができた「知識」、「情報」、「気づき」、そして「新たな目標」は、個人としても団体としても貴重な財産となりました。また、他団体との交流を通して、皆さんが取り組まれていることや活動に対する思いを知ることができ、非常に刺激になりました。今後も、この機会に築いた横のつながりを大切にして、双方で活動の質をボトムアップしていけるような関係・環境の構築を目指し、遂には、外務省やJICAとのより良い連携、有益な国際協力活動に繋げていきたいと思えます。

#### 【国際協力活動の意義と視点】

今回の研修は、国際協力の業界に入って数カ月の私にとって、「国際協力の意義」を知る良い機会となったと同時に、ODAの様々なスキームについても体系的に理解することができ、弊団体が行う事業の位置づけと照らし合わせ、ODA全体の中から俯瞰できる視点を養うことができました。また、地域開発課題では普段馴染みのない地域における現地の課題・脆弱性と日本との国交・支援の重要性について知見を深めることができ、環境課題に取り組む弊団体の活動意義について、日本と世界を取り巻く社会的・政治的背景から認識することができました。他方で、現場レベルでの具体的な事例紹介や講師の方々の経験談も講義を通して知る事ができ、地域性や課題への深い理解が、支援のアイディアを引き出すと同時に、適正技術を見極める力に通ずることを学びました。今後、普及員として現場で活動に当たる際には、外務省から提供されている情報資源を最大限活用しつつ、全体から俯瞰できる視点（社会問題と支援の意義）と、現場レベルの視点（課題への理解と適正技術の普及）と双方の視点を持ち合わせ、社会への説明責任を果たしながら、地域への持続的な技術や知識の普及に努めていきたいと感じました。

#### 【NGO-政府との連携と社会への責任】

より有益なNGO活動を支える政府の試みについても知る事ができました。NGOと政府との対話の機会として、ODA政策協議会、連携推進委員会が実施されており、両者のより良い連携が常に追求されていることを知りました。相互理解を深め、国際協力の質を維持し高めていく上で非常に重要な機会であると認識しました。是非、弊団体でも積極的にこのような機会を利用し、変わりゆく社会問題解決へのニーズを把握し、事業内容の質の改善と向上を常に追求していける団体でありたいと思いました。また、スキームの予算源である多額

な公的資金の供与は、市民社会に対する説明責任が同時に高まることを再認識しました。時代とともに社会から要求されることが変化の中で、団体としても常に自身の立ち位置や方向性を振り返りながら、より社会への説得性のある事業内容・活動・評価を心掛けていきたいと感じました。

### 【安全対策】

国際NGOにとって安全対策は重要度の高い取り組みのひとつですが、今回の研修では安全対策に関する講義だけでなく、他団体での取り組みを共有する機会が設けられており、大変参考になりました。講義を通じては、海外滞在時に大きな懸念材料となるのはテロの脅威であると再認識しました。特に、ホームグロウン型やローンウルフ型と呼ばれるテロ(海外の過激組織の主張に共鳴し自国で起こすテロ)の現状は、情報網がボーダレスに張り巡らされている現在、地域を問わずテロの危険が潜んでいることを意味し、強く意識づけられました。また、テロ遭遇時の対処法、テロに対する平素の備え、団体内における対応、政府による法人援護の流れ等、手引きとして情報を得ることができたので、団体内でも共有・活用するとともに、海外安全ホームページや報道等より最新の治安情報の入手に努め、状況に応じて適切で十分な安全対策を講じていけるよう心がけていきたいと思いました。

### 【課題と目標】

今回参加された団体の中では、マイナー地域で活動に当たられている団体も含まれましたが、N連の事業実施国の70%以上が弊団体も対象地としているアジア、東南アジアであり、外務省職員の方々からは、活動実績の少ない地域への支援も強化していきたいとのこともありました。地域開発課題の講義では大洋州、西アフリカ、中米と援助対象としてはマイナーな地域をご紹介頂きまして、各地域における支援の重要性や投資に値する潜在性を認識したと同時に、援助活動をする上での課題も多く知る事ができました。島国では国土が狭く分散されていて、自然災害や気候変動の環境変化に弱いことや、不安定な政情と治安、言葉の問題等、まだまだ日本のNGOや企業が参入しにくく、ODAが使われにくい状況にあり、アジアの途上国にはない複雑な背景の中で協力関係を構築していかなければならない非常に難しい地域であると感じました。

一方で、日本NGOの活動の質や継続性について、海外のNGO(特に欧米NGO)との比較において高く評価されていることも認識しました。しかし、欧米の団体に比べて、アピール力不足、活動実績の売り込み力の不足について、「もったいない」とのご意見も頂きました。個人として、民間での経験を活かせる点ではないかと思い、今後、実践を積む中で意識して取り組んでいきたい新たな目標となりました。各団体でのPR活動とは別に、現地政府機関との連携を基盤とした地域や分野間での横のつながり、更には民間や研究機関との連携を通じて、資金ルートの構築と国際的ネットワークにおける発信力を高めていきたいと思いました。